

# 少年の主張 大会

令和3年度第16回少年の主張大会に市内の小中学校から多数の作文の応募がありました。

審査の結果、最優秀賞に選ばれた方を次のとおり紹介します。

応募された全作文は、毎週土曜日の朝8時より、おグッドFMの番組「サニサタ！S O O sunny Saturday」内で紹介をしています。

## 少年の主張大会 審査結果 (敬称略)

### 【小学生の部】

#### 最優秀賞

「機械化は本当にいいことなのか」

山下大翔 (諏訪小6年)

### 【中学生の部】

#### 最優秀賞

「面と向かって」

西丸知伺 (財部中2年)



### 小学生の部 【最優秀賞】

「機械化は本当にいいことなのか」

諏訪小6年 山下 大翔



「好きなことは自分で物を作ることです。今興味がある道具はかなやと石です。」

と、自己紹介をする時に、ぼくはいつもこんなことを言っている。周りの友達にはなかなか僕みたいな人はいない。

小さいころから、左官をしていくじいちゃんの影響で、たくさん工具にふれたり、まきを割ったり、木工をしたりしてきたので物づくりが大好きだ。山に囲まれた中で生活のために色々な工夫をすることが楽しくてたまらない。

そんなぼくには最近は何となく不安に思うことがある。それは多くの事に機械が使われ機械化が進んでいることやAIが多く現場で活やくして

ることだ。

おかげでとても便利で楽ができることはよく分かるし、ぼくも生活の中でも便利さを感じている。でも、このまま何でも機械化が進んでいくと、大事なことが失われていくような気がしている。

機械化が心配だと思う理由の一つが、これまで使われてきた物にこめられた先人の知恵がうすれてしまうからだ。例えば、ぼくが良く使う工具にもたくさん電動工具があり、効率的に作業を進めることができるが、伝統的なこぎりやかんななどの大工道具はもとも木の魅力を最大限に生かすように考えられて作られている。木を切ったり、けずったりする作業は同じでも、自然を生かすという考えがつまっているのでみんなに知ってほしいし、大切にしてもらいたいと思っている。

そして、二つ目に人がもつせひしいからだ。ぼくはじいちゃんのような左官になることが夢だ。左官の仕事は、機械ではまねできない技術が必要で、見た目やさわった感覚は職人と呼ば

れる人間にしか分からないことだと思う。こういう人間にしかできない作業はたくさんあるはずだ。機械が同じようにやっても細かい感覚は人にしか感じることができないと思う。だから、そんな職人の後をつぐのも機械ではなくぼくたち人間でないといけないと思う。

機械を使うことは、多くの人たちを助けてきたし、これらもどんどん便利な世の中になつていくと思う。ぼくは、

「機械がなくなればいい。」

と言いたいわけではない。ただ、便利さや楽をすることになれてしまうと人間がもっている知恵や技術、感覚がぶつってしまうのではないかと思うし、簡単には色んなことができてしまうことで、ねばり強くなることがあきらめないことの大切さが失われてしまう気がする。だから、ぼくが大事だと思っていることは、人間がもっている知恵や技術、感覚などの力を忘れないで生かしながら、機械を手に使っていくことだと思っている。ぼくもそのためにじいちゃんからたくさん力を受けつぎたいと思っている。

「面と向かって」

財部中学校2年 西丸知何



何がちがうのか。そう何度も思った。

私は携帯を持っていない。親の携帯で誰ともLINEをしていない。それは、私が「携帯は高校生になってからでいい。」

と言ったのが始まりだった。何か伝えたいことがあるときは手紙を書いて自らの思いを伝えていた。手紙を書くことに不自由さを感じたことは一度もなかった。手紙で書いた方が思いが伝わり、手紙で書いていたからだ。しかし、中学校に入学すると状況は一変した。携帯を持っている同じ小学校の子はほとんど場になじんでいった。何がちがうのか考えてみると、携帯しか思

いつかない。LINEをしていれば友人の友人ともつながることが出来る。だから昨日までは他人と認識していた人が友人に変わるのだ。でも、一生懸命いろいろな人に話しかけていくと優しく接してくれる人もいた。その人がとても温かく感じたし、この人がいればいいと思った。何ヶ月か過ぎていき、だいたいなじめたときに友達と昨日の話をしていった。初めは学校生活の中で楽しく話していた。途中で盛り上がっていった。私は話題についていけず、一人取り残されたような気分だった。勇気を出して、「何の話？」

察してか、一人の女の子は後から、昨日したLINEとか面白かった動画の話をしていたんだよと教えてくれた。私はそのとき、その言葉でどれほど救われたか今でも鮮明に覚えている。内容はどうであれ、教えてくれるという行動にこまでうれしくなったのは初めてだった。その子は私を受け入れてくれていと思うとさっきの落ち込んでいた気持ちは吹き飛んでいった。それでも、毎回内容を聞くのは申し訳ないので、親が許してくれる限り、最新の動画やオススメしてもらった動画をチェックするようにしたが逆効果だった。何でも最新のものを知っていないと話題に遅れる、前みたいなのが一人ぼっちになるような気持ちになりたくないと思えば思うほど、負担になっていった。負担がたまればたまるほど、朝、頭やお腹が痛くなったり、学校に行きたくないと思うようになっていった。教室に行く足取りも重くなった。悪口言われたらどうしよう。仲間外れにされたくない。やっぱり携帯が欲しいと思いついた教室。そこには満面の笑

みでおはようと挨拶をしてくれるクラスメイトがいた。私は今でも携帯を持っているのと持っていないのでは何がちがうのかと思うことがある。怖くなり、不安になる朝も少なくはない。今の時代に必要不可欠な携帯。この電子機器から教えられたことがある。それは、本当の自分の気持ちはだ。携帯には感情がない。だから、LINEなどで、みんなが同じ言葉を送っているも、どんな気持ちで言っているかが分からないので、直接言えることは面と向かって言いたいと思う。そして、相手の気持ちも尊重しながら自らの気持ちも大切にしたいと思う。最近では技術の進歩により便利な物がどんどん発売されてきた。携帯もそうだ。コマーションが放送されていると、妹が欲しいと母に言うことがある。私は、自身の体験談を妹に伝え、良く考えるべきだと言いたい。コミュニケーション能力が足りない私は、高校生になるまで携帯はいりません。と、ここに宣言する。